シンポジウム6
診療参加型臨床実習マニュアルを老年歯科医学教育に活かす

座長：
小笠原 正（よこすな歯科クリニック）
會田 英紀（北海道医療大学　歯学部　高齢者・有病者歯科学分野）
Sun. Jun 18, 2023 8:20 AM - 9:20 AM 第1会場 (1階　G4)
企画：教育委員会

【小笠原 正先生 略歴】
1983年　松本歯科大学卒業

松本歯科大学障害者歯科学講座助手
1990年　松本歯科大学講師（障害者歯科学講座）
2000年　松本歯科大学助教授
2007年　松本歯科大学教授（特殊診療科、大学院健康増進口腔科学講座）
2019年　広島大学客員教授
2021年12月　松本歯科大学退職
2022年4月　よこすな歯科クリニック（静岡市清水区：障害者のための歯科診療所）

【所属学会】
日本障害者歯科学会（理事長、代議員、専門医指導医、専門医、認定医指導医、認定医）
日本老年歯科医学会（代議員、指導医、認定医、専門医、教育委員会オブザーバー）
日本摂食嚥下リハビリテーション学会（評議員、認定士、認定委員会委員）
日本有病者歯科学会（会員）
日本環境感染学会（会員）
日本歯科麻酔学会（会員）

【會田 英紀先生 略歴】
1993年　北海道大学歯学部卒業
1997年　北海道大学大学院歯学研究科修了
1997年　北海道大学歯学部附属病院 第２補綴科 助手
1998年　北海道大学歯学部 歯科補綴学第二講座 助手
2003～2005年，2007～2008年　UCLA Weintraub Center客員研究員
2008年　北海道医療大学歯学部 咬合再建補綴学分野 講師
2010年　北海道医療大学歯学部 咬合再建補綴学分野 准教授
2016年　北海道医療大学歯学部 高齢者・有病者歯科学分野 教授
2016～2018年　北海道医療大学歯学部 歯学教育開発学分野 教授（兼任）

[SY6-2]摂食嚥下スクリーニング検査

〇阿部 仁子[1] (1. 日本大学　歯学部　摂食機能療法学講座)

【略歴・役職】
2004年3月　日本大学歯学部卒業
2008年3月　日本大学大学院歯学研究科歯科基礎系専攻修了（歯学博士）
2008～2012年　日本大学歯学部摂食機能療法学講座　助教
2010～2012年　カナダオンタリオ州　ウェスタン大学健康科学学部コミュニケーション科学機能科
Postdoctoral fellow

©Japanese Society of Gerodontology

2017年～　日本大学歯学部摂食機能療法学講座　准教授

日本摂食嚥下リハビリテーション学会　認定士
日本老年歯科医学会　認定医
日本摂食嚥下リハビリテーション学会　評議員

【抄録（ Abstract）】
日本大学歯学部摂食機能療法学講座では，2012年から第6学年に有病高齢者および摂食機能障害患者に対する対応や摂食機能療法の習得と体験を目的とし，相互実習を含めた基礎実習と診療内容の見学を主とした参加型臨床実習を実施している。実習は，週1回の基礎実習（半日3時間）と週2回（終日2日間）の臨床実習である。

基礎実習では，摂食機能障害患者を想定した①口腔ケア②嚥下間接訓練と摂食嚥下スクリーニング検査③嚥下造影検査と嚥下内視鏡検査による摂食嚥下機能の画像診断の相互実習に加え，④多職種連携や胃瘻に関わる課題による KJ法⑤在宅療養中有病高齢者の顎歯模型と症例の提示による治療計画の立案による学生同士のグループディスカッション⑥在宅診療教育用高齢者シュミレータを用いた OSCE形式による実習試験を実施している。

一方，週2回の臨床実習は，外来，病棟・居宅や施設への訪問診療への同行と，見学症例に関する口頭試問及びフィードバックを行った。これらの実習は卒前教育として，学生の理解度や手技の習得度も高く，学生からの評価も高かった。

令和3年から第5学年の臨床実習に組み込まれることとなったが，新型コロナウイルス感染拡大に伴い学年全体の相互実習及び施設・医科病院への訪問診療が困難となったため，3～4名を1班とした少人数に対する臨床実習（相互実習と外来見学及び介助）に実習内容を変更した。コロナ禍における相互実習は，感染予防対策の観点から摂食嚥下スクリーニング検査のみを実施することとした。術者役と患者役を決め，十分な感染対策を講じた上で嚥下スクリーニング検査を行なった。コロナ禍における実習では多くの制限があり，実習内容も限定的となることから，実際に実習を行なった結果は「学生への教育効果という点で十分ではない」というのが教員間で一致している見解であった。中でも臨床実習で学ぶべき患者とコミュニケーションをとるという経験が圧倒的に少なく，術者役になった時に患者役の学生にどのように声掛けや指示をすれば良いのか，検査結果をどのように説明するのかわからず困惑する場面が多く見受けられた。また，患者への指示をしながら機能の評価をすることが非常に難しいということも明らかとなった。本学会の『診療参加型臨床実習マニュアル「摂食嚥下障害のスクリーニング検査」』には，当講座が過去に実施してきた内容が網羅されており，指導者と学生にとって有意義である。各大学の実習内容に合わせて，効果的に活用することで，より充実した診療参加型実習を実施できると考える。

©Japanese Society of Gerodontology